

国語

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ロマンティッククラブとは何でしょうか？

現代日本で「ロマンティック^A」という言葉^Aを聞いたことのない人はいないでしょう。ロマンティックな映画、ロマンティックな雰囲気、などなど。

学生にアンケートをとって、ロマンティッククラブの「I」なイメージを挙げてください、と言うと、「誰もいない海辺で恋人と二人きり」「イルミネーションを見上げる仲の良いカップル」「星空を見上げて愛を語り合う」という答えが返ってきます。

こうして見ると、「ロマンティック」という言葉は、かなりしっかりと日本語の語彙の中に定着しているようです。ギリシャ的恋愛や中世宮廷恋愛がほとんど人に知られていないのに対して、「ロマンティッククラブ」のイメージをもっていない人は皆無ではないでしょうか。

とはいえ、この「ロマンティッククラブ」の定義を述べてください、と言うと大体の学生は困惑します。実際、何となくのイメージはあっても、概念的にちゃんと把握している人は少ないでしょう。

このカタカナ語が示す通り、「ロマンティッククラブ」はオウベ^アイ文化の産物で、100パーセントの輸入品です。あえて訳せば「小説的恋愛」「幻想的色恋」「空想的色情」とでもなるでしょう。もちろんこんな訳語は定着せず、ほかの輸入語と同じく、しっかりした定義はそっちのけで、とりあえずのイメージだけがドラマ、映画、マンガ、小説の中を飛び交っています。

そこで、ロマンティックの本来元ヨーロッパにおいて、いかにこのロマン主義的な愛が歴史的に成立し、どのような性格をもっていたのか、詳しく追っていくことにしましょう。

ロマンティックという言葉は、もともと「小説のような」という意味です。どんな小説かというと、17世紀中頃にイギリスでよく読まれていたもので、中世宮廷恋愛をモデルにしています。南仏で生まれたキシ道^イ恋愛が、イギリスに渡り、そこで熟成され、できあがってきた文学です。

中世宮廷恋愛をモデルにした、大好きな女王のために命を投げ出す冒険ものの話で、ドラゴンクエストシリーズのような巨鬼^{トロール}あり、魔女あり、妖精ありの空想的な冒険恋愛物語でした。それが「ロマンティック」と呼ばれるようになります。想像力に溢^{あふ}れ、現実離れしている冒険活劇、恋愛物語のことです。

この「ロマンティック^B」なるものが19世紀にヨーロッパで大流行します。話は文学だけでなく、絵画や音楽にも及び、様々な个性的な芸術家が出現します。ロマン主義は、文学、音楽、絵画の領域を横断しつつ、ヨーロッパの国中を駆け巡^aる、複雑でいろいろな方向性をもった芸術運動に発展するのです。

歴史上の一大運動^ブの常で、細かく言うときりがないし、大雑把にまとめるといくらでも反例は見つかります。遠くから見ると、ぼんやりと統一性はあるけれど、近くで見るといろいろとごちゃごちゃしていてよくわからない、それが歴史である、ということ、先ほどちょっとエラ^ウそうに「日本ではロマン主義を概念的に正確に把握している人はいない」などと言っていました、
「概念的に正確、精密な把握は無理」というのが、おそらくは正しい見方です。
まあ、そんなことばかり言っても仕方がないので、学問的厳密性をギセイ^エにして、あえてものすごく簡略化していきましょう。

一言で言うと、ロマン主義とは、幻想万歳の世界です。18世紀が理性と権威の時代であるのに対し、19世紀は、そんな理性では割り切れないものもたくさんあるでしょ、権威なんかロクでもない、という話が主流になる時代です。それで、現実よりも、幻想＝理想万歳、理性よりも感情万歳、ということでロマン主義が流行^{ハヤ}るのです。

そこで、このロマン主義的精神をもうちょっと詳しく見ていきましょう。

文学史的に言うと、18世紀末から19世紀初頭、イギリス、ドイツ、フランスを主なブタイ^オとして、ロマン主義が起こります。イギリスのシェイクスピア、『ロミオとジュリエット』の世界観などを一つの発想源にして、ほぼヨーロッパ全土に広がりました。ざっと主要な文学者とテーマを挙げると、こんな説明がよくされます。

フランスにルソーが出てきて、今まで理性により抑圧されてきた、感情、直感の重要性を唱え、「私」の感性世界を重要視します。そして今度はそれがドイツに輸入され、ゲーテ(ドイツのルソーなどと呼ばれる)やシラーの「疾風怒濤^注」が出てきて、やはり感覚の重要性をウツタ^カえ、ロマン主義の下地を作ります。これがドイツで花開き、文学だけでなく、ヘルダーリンやフィヒテなど様々な哲学者、思想家もロマン主義的な思想を展開します。そこで問題になるのは、やはり「私」の世界の確立、Ⅱ 的世界観です。そしてそれが、スタール夫人などによりフランスに紹介され、フランスロマン主義の端緒を開きます。

フランスでは同時期にシャトーブリアンがメランコリックな恋愛をネタに、自伝という「私」語りを確立し、ラマルチヌやユーゴーがそうした新たな感性に適応する新しい詩法を生み出します。

それまで詩法とは、いろいろな規則を重視しつつ創作する方法論でした。つまり、感情を理性に従わせるのが要だったのです。しかしロマン主義の世代になって、「そうじゃない、理性よりも感性に重きを置き、一般的な法則を超えた個人の世界の表現を目指すのだ」ということで新しい詩法が求められたのです。そしてそれがまた、イギリスの作家に影響を与えます。

このように、イギリス、ドイツ、フランスの国境を越えた影響関係の中で展開していったのがロマン主義です。

使う言語によって、ずいぶん差があり、同じ国でも作家によって、だいぶ趣^クが違いますが、

大抵の場合、個人の世界の特権的な題材として恋愛が取り上げられ、そこではしばしば中世の「ロマンティック」な宮廷恋愛が再発見、再評価されます。

国がどこであれ、ロマン主義にあつて問題になるのは、18世紀の啓蒙主義^{けいもう}の否定です。

啓蒙主義とは、理性の光で全てを照らそう、という運動です。そこでは、理性で全てを裁断して、感性世界の表現も、がんじがらめの理性的なルールを適用して表現するというのが主流でした。そうした理性のワク^キを飛び越えた感情と感覚の世界などはユル^クされず、全てを理性的で一般的なルールに従わせよう、としていたのです。

しかしながら、ロマン主義にあつては、理性の光では照らしきれない神秘的な世界や、心のヤミ^{ほそじ}、感情の迸り^{はなは}が、実は大事なのではないか、という話になっていきます。これがヨーロッパ全土で広がり、芸術、思想の一大運動になったのです。

^cこのロマン主義の隆盛は、ヨーロッパの精神的にはとても大きな事件でした。

例えば19世紀末から20世紀初頭に大活躍したフランスの批評家、文学史家、ブリュンチエールはロマン主義を念頭に置いてこんなことを言っています。

ヨーロッパのイタ^コる所で、8世紀から10世紀以来、いろいろな考え方がやりとりされ相互浸透してきたのだが、今や我々が見るところ、明白であるのは、一国の文学史はヨーロッパ全般の文学史の中に統合されるのが良い、ということである。

このようにヨーロッパの知的交流がⅢし、頂点に達したところでロマン主義がヨーロッパ全土を席卷^{せっけん}した、と見ることができます。ヨーロッパ共通の文化的な要素としてロマン主義が確立した、と見ることも可能でしょう。

（鈴木隆美『恋愛制度、束縛の2500年史』による。問題作成の都合上、省略した箇所がある。）

（注） 疾風怒濤——18世紀にドイツで起きた文学運動。
メランコリック——憂鬱な様子。

問1 二重傍線部ア～コのカタカナを漢字に改めよ。(楷書で記すこと。)

ア	オウベ _イ	1
イ	キシ _イ	2
ウ	エラ _ソ ウ	3
エ	ギセイ _イ	4
オ	ブタイ _イ	5
カ	ウツ _タ え	6
キ	ワク _イ	7
ク	ユル _サ れず	8
ケ	ヤミ _イ	9
コ	イ _タ る	10

問2 傍線部a～cの漢字の読みをひらがなで記せ。

a	巡 _ル	11
b	常 _ル	12
c	趣 _ル	13

問3 空欄Ⅰ～Ⅲに入る語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれ

ぞれ一つずつ選べ。Ⅰ 14 Ⅱ 15 Ⅲ 16

Ⅰ	① 現実的	② 典型的	③ 一元的	④ 写实的	⑤ 学問的
Ⅱ	① 原理主義	② 恋愛主義	③ 個人主義	④ 合理主義	⑤ 形式主義
Ⅲ	① 一般化	② 大衆化	③ 類型化	④ 分極化	⑤ 活性化

問4 傍線部A「『ロマンティック』という言葉」に関する説明として最も適当なものを、次の

①～⑤のうちから一つ選べ。 17

① 現代の日本では「ロマンティック」という言葉には恋愛に関するイメージが定着しており、平凡な恋愛のイメージを表す言葉である。

② もともとは中世の宮廷恋愛をベースにした空想的な冒険恋愛小説の呼び名だが、日本では恋愛小説以外のものを象徴する言葉として扱われる。

③ 日本では外国の文化の影響を受けにくく「ロマンティック」の定義が理解されず、適切な日本語も定着せずに誤った意味で使われている。

④ 日本人は「ロマンティック」の意味を正確には理解していないが、恋愛に関する場面を容易に表現することができる言葉として根付いている。

⑤ 現代の若者が、「ロマンティック」の本当の意味も知らうともせず恋愛を表現するために何となく使う言葉として世の中に氾濫している。

問5 傍線部B「『ロマンティック』なるものが19世紀にヨーロッパで大流行します」とあるが、

その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 18

① 現実的な恋愛を理想とする啓蒙主義への反発から空想的な恋愛物語への憧れが高まり、「ロミオとジュリエット」などを下地としたドラマティックな恋愛物語が人気となりイギリスでもてはやされた。

② フランスでは、理性に従って心の内面を肯定し「私」の世界を表現したいという新しい感性に対する欲求が高まり、ラマルチーヌらが生み出した新しい創作の詩法が時代の大きな潮流となった。

③ 理性を重視する啓蒙主義への反発から、理性では表現できない感情や感覚の世界を重視する動きがイギリスやフランス、ドイツで様々な分野に起こり、国境を越えて相互に影響して広まった。

④ ルソーが個人的世界を重要視する思想をもとにロマン主義を起こし、文学をはじめ絵画や音楽の分野にも広がる領域を越えた芸術運動となってイギリスやドイツでも支持されるようになった。

⑤ 18世紀の啓蒙主義を批判するドイツのシラーが、フランスで起きたロマン主義思想を支持して発展させ、それが再びフランスに入りヨーロッパのロマン主義思想の集大成として完成した。

問6 傍線部C「このロマン主義の隆盛は、ヨーロッパの精神的にはとても大きな事件でした。」

とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

19

① 19世紀までイギリス、ドイツ、フランスにおいて別々に発展した精神主義の交流が行われたが、ロマン主義の勢いは様々な思想を統一化してしまうほどであり、ヨーロッパ文化の多様性が失われたということ。

② 理性や権威で秩序立てられていた啓蒙主義が、感情や幻想という感性の発露であるロマン主義に塗り替えられたことは、ヨーロッパの思想を根本から覆すような残念な出来事であつたということ。

③ 19世紀まで各国の文化はヨーロッパの中で相互に影響し合つて発展してきたが、理性にとられないロマン主義はその登場によりヨーロッパ全土に浸透し、共通の思想として完成されたということ。

④ ヨーロッパ世界の文化の交流の発展により啓蒙主義はロマン主義に取って代わられたが、ヨーロッパ共通の思想が確立したことにより、それ以降のヨーロッパの思想活動の交流は逆に必要がなくなったということ。

⑤ 自由な個人の世界を追求するために長い間評価されていなかった中世の恋愛小説が見直されたことで、それまでの理性的な世界が崩壊し感情や幻想という曖昧なものに翻弄されるようになったということ。

問7

本文の論の展開の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

20

① 日本での「ロマンティック」の概念を紹介して本来の意味の理解への導入とし、ヨーロッパにおけるロマン主義の発生・発展の経緯の説明につなげて、さらに精神上の位置づけに関する解釈で締めくくっている。

② イギリスで発祥したロマン主義的文学をテーマとして掲げ、ヨーロッパを統制していた啓蒙主義の高まりからロマン主義への移行の原因となった芸術運動の経過を述べ、18世紀から19世紀のヨーロッパの精神史の変遷をまとめている。

③ 日本では「ロマンティック」のイメージが曖昧であるという事例を挙げ、ヨーロッパでも言語や作家によって解釈が違ってきただけで併せて、ロマン主義の概念が確立するまでの過程をヨーロッパの思想の変遷と関連付けて述べている。

④ イギリスで生まれた「ロマンティック」の概念は、国境を越えた交流によってフランスやドイツに影響したという事実を説明することで、ロマン主義の思想が変化しヨーロッパの精神性の大衆化に結び付いたことを暗示している。

⑤ 日本で「ロマンティック」の適切な訳語が定着しないことを紹介し、ロマン主義はヨーロッパで理性に抑圧された人々から生まれたという経緯に話題を発展させ、日本とヨーロッパの精神史を対比させて考察している。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

判官（源義経）の一行は、兄である頼朝の追っ手から逃れるために西国へ都落ちしようとしたが失敗に終わった。そこで今度は東北を目指し、その道中、吉野山（現在の奈良県中部）に潜むこととなった。

判官、武蔵坊を召して仰せられるは、「人々の心中を義経知らぬ事はなけれども、僅かの契りを棄てかねて、これまで女を具しつるこそ、身ながらも実に心得ね。これより静を都へ帰さばやと思ふはいかがあるべき」。武蔵坊畏まり申しけるは、「これこそゆゆしき御計らひ候ふよ。弁慶もかくこそ申したく候ひつれども、畏れをなし参らせてこそ候ひつるに、かやうに思し召し立ち候はば、日の暮れ候はぬ先に、疾く疾く御急ぎ候へ」と申せば、「何しに帰さん」と言ひて、また「思ひは帰さじ」と言はんことも、侍どもの心中いかにぞやと思はれければ、力及ばず。静を都へ帰されけり。

「誰か志あらん者、静を京へ届けてばや」と仰せられけり。侍二人、雑色三人御供申すべき由を申しければ、「偏へに義経に命をくれたるところ思はんずれ。道の程よくよく勞りて都へ届けて、各々はそれよりして何方へも心に任すべし」と仰せを蒙りて、静を召して仰せられけるは、「志尽きて都へ帰すにはあらず。これまで引き具したるも志愚かならぬ故にてこそ。心苦しかるべき旅の空にも人目をも顧みず具足しつれども、よくよく聞けばこの山と申すは、役行者の踏み始め給ひし菩提の峰なれば、精進潔斎せでは、叶ふまじき峰なるを、わが身の業に犯されて、これまで具し奉る事、神慮の恐れあり。これより都へ歸りて、禪師のもとに忍びて、明年の春を待ち給へ。義経も明年も実に叶ふまじくば出家をせんずれば、人も志あらば、共に様をも変へ、経をも読み、念仏をも申さば、今生後生などか一所にあらざらん」と仰せられければ、静聞きもあへず、衣の袖を顔に当てて泣くより外の事ぞなき。

「御志尽きせざりし程は、四国の波の上までも具足せられ奉りぬ。X 尽きぬれば力及ばぬことなれども、憂き身の程こそ思ひ知られて悲しけれ。申すにつけてもいかにぞやと覚え候へども、過ぎにし夏の頃よりしてただならぬ事とかや申すは、産すべきものにも早定まりぬ。世に隠れもなき事にて候へば、六波羅へも鎌倉へも聞こえんずらん。東の人は Y なきと聞けば、今に取り下されて、いかなる憂き目を見んずらん。ただ思し召し切りて、これにていかにもなし給へ。御為にもみずからが為にも、なかなか生きて思はんよりも」と、掻き口説き申しければ、「ただ理をまげて都へ歸り給へ」と仰せられけれども、御膝の上に顔をあて、声を立ててぞ泣き伏しける。侍どももこれを見て、皆袂をぞ濡らしける。

判官鬢の鏡を取り出だして、「これこそ朝夕顔を写しつれ。見ん度に義経見ると思ひて見給へ」とて、賜びにけり。これを賜りて、今亡き人の様に胸に当ててぞ焦がれる。涙の隙よりかくぞ

E 見るととても嬉しくもなし増鏡恋しき人の影を留めねば

と詠みたれば、判官枕を取り出だして、「身をば離さでこれを見給へ」とて、かくなん。

急げども行きもやられず草枕静に馴れしころならひに

それのみならず、財宝をその数取り出だして賜びにけり。

（『義経記』による）

（注）武蔵坊——武蔵坊弁慶。もとは比叡山の僧で武術に優れ、家臣として義経に仕えた。

静——義経の愛妾。今回の逃避行に随行していた。

役行者——奈良時代の山岳修行者で、修験道の開祖。

禪師——磯禪師。静の母。

六波羅——京都の地名。ここでは義経追捕のために上洛した北条時政の邸を意味する。

問1 傍線部ア～エの古語の読みを、現代仮名遣いを用いてひらがなで記せ。

ア	雑色	21
イ	菩提	22
ウ	六波羅	23
エ	袂	24

問2 波線部あゝえの語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

あ 愚かならぬ

25

- ① 途切れることがない
- ② 立派で尊い
- ③ 思慮に富んでいる
- ④ いい加減ではない
- ⑤ はつきりしない

い 様をも変へ

26

- ① 年も老いて
- ② 声も変えて
- ③ 住み処^かも移って
- ④ 名前も変えて
- ⑤ 髪も剃^そって

う 聞きもあへず

27

- ① 聞き終わらないうちに
- ② 聞き終わるとすぐに
- ③ 聞いているのかいないのか
- ④ 聞き返すこともできず
- ⑤ 身動きもせずに聞いて

え ただならぬ事

28

- ① 追手に見つかること
- ② 身重になったこと
- ③ 別れが近づくこと
- ④ 崇^{たか}りを受けること
- ⑤ 頼朝の怒りを被^{こうむ}ること

問3 波線部 a・c・e の助動詞の意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 29

- | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|------|---|----|---|----|
| ① | a | 打消 | b | 打消意志 | c | 断定 | e | 断定 |
| ② | a | 完了 | b | 打消意志 | c | 推定 | e | 完了 |
| ③ | a | 完了 | b | 打消推量 | c | 断定 | e | 断定 |
| ④ | a | 打消 | b | 打消意志 | c | 断定 | e | 完了 |
| ⑤ | a | 完了 | b | 打消推量 | c | 推定 | e | 断定 |

問4 波線部 d 「思ひ知られて悲しけれ」の文法的説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 30

- ① 動詞＋接続助詞＋形容詞＋助動詞
- ② 動詞＋助動詞＋助動詞＋接続助詞＋形容詞＋助動詞
- ③ 動詞＋助動詞＋接続助詞＋形容詞
- ④ 動詞＋助動詞＋助動詞＋接続助詞＋形容詞
- ⑤ 動詞＋接続助詞＋形容詞

問5 二重波線部 i・ii の主体として最も適当なものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。 i 31 ii 32

i 力及ばず
ii 詠じける

- ① 義経
- ② 静
- ③ 弁慶
- ④ 侍ども
- ⑤ 東の人

問6 傍線部 A 「かくこそ申したく候ひつれ」とあるが、「かく」の指示内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 33

- ① 家臣の不満の声を聞いていながら静を都に帰さないことに、納得できないということ。
- ② 一緒に逃げていた静に都へ帰ってほしいというのは、すばらしい考えであるということ。
- ③ 自分に任命してくれれば、必ず静を無事に都へ帰すので、安心してほしいということ。
- ④ 静との縁を切らずに、このまま同行していると、追っ手に捕まってしまうということ。
- ⑤ 逃避行に女性を連れているのは不都合であるから、静を都に帰してほしいということ。

問7 傍線部B・Cの解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

B 何方へも心に任すべし 34

- ① どこにでも連れて行つてほしい
- ② どこにいても気を配ってほしい
- ③ どこに連れて行くのも任せよう
- ④ どこへでも好きな所へ行け
- ⑤ どこであつても安心しろ

C などか一所にあらざらん 35

- ① きつと一緒にいるはずだ
- ② どうしても一緒にはいられない
- ③ どうして一緒にいるだろうか
- ④ きつと一緒にはいないだろう
- ⑤ どこかで一緒にいるだろう

問8 空欄X・Yに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 36

- | | | | | |
|---|---|----|---|----|
| ① | X | 志 | Y | 風情 |
| ② | X | 契り | Y | 情け |
| ③ | X | 情け | Y | 理 |
| ④ | X | 威光 | Y | 心 |
| ⑤ | X | 罪 | Y | 涙 |

問9 傍線部D「なかなか生きて思はんよりも」とあるが、どういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 37

① 生きて捕らえられ東国の人につらい目に遭わせられるよりも、一緒にいるうちに二人で死んだほうがよいということ。

② 一人で都に帰り義経のことを待ち続けるよりも、もう思いは尽きたとはつきりと縁を切ってもらったほうがよいということ。

③ 都に帰ってこの先一緒に居られるかどうかを憂うよりは、ずっと離れずにこのまま吉野山に潜んでいたほうがよいということ。

④ 自分一人が安全な地で義経が無事かどうかを心配するよりは、危険であっても義経と東北に向かったほうがよいということ。

⑤ 東国の人に捕らえられることを思い悩みながら生きながらえるよりも、義経の手にかかって今死んだほうがよいということ。

問10 傍線部E「見るとても嬉しくもなし増鏡恋しき人の影を留めねば」の和歌で用いられている修辞として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 38

① 「見るとても嬉しくもなし増鏡」が「恋しき」を導く序詞しじとなっている。

② 三句切れとなっており、恋しい思いが増すことを強調している。

③ 「留め」が「泊め」の掛詞かけことばとなっている。

④ 「影」が「鏡」の縁語となっている。

⑤ 「増鏡」が「恋」を導く枕詞まくらことばとなっている。

問11 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 39

① 義経は、静が女性の身でありながら吉野山に入ったことに対する祟りたたを恐れたため、無事に逃げ通せたら静と出家する約束をした。

② 義経が静の願いを聞き入れず、無理にでも都に帰ってほしいと伝えたと、静は声を立てて泣き伏し、侍たちもその様子を見て皆涙を流した。

③ 義経は静を都に帰すことを弁慶に伝えたあとも、数度命令を覆し、最後に侍たちの心中を思い、ようやく静への未練を断ち切った。

④ 義経は、女性である静が逃避行の足手まといになることを恐れ、静に十分な財宝を別れの品として与え、家臣とともに都に帰るように伝えた。

⑤ 静に対する愛情が西国に向かったときよりも薄れてしまったうえに、家臣からの反感もあつたため、義経は静と同行することを断念した。

(国語の問題は終わり)